

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部設置							
フリガナ	設置者	ガッコウホウジン カサノカクインダイガク 学校法人 金沢学院大学							
フリガナ	大学の名称	カサノカクインダイガク 金沢学院大学							
大学本部の位置		石川県金沢市末町10の5番地							
大学の目的		金沢学院大学は、教育基本法及び学校教育法に従い、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的応用能力及び道徳的教養を豊かにして、建学の精神「愛と理性」の伸長を指標に、人格を陶冶し、創造性と実行力により文化日本の建設に貢献し、進んで世界の平和と人類の福祉に奉仕する有為な人材を育成することを目的とする。（学則第1条より）							
新設学部等の目的		これまで本学の人間健康学部では、スポーツ健康学科と健康栄養学科からなる2学科体制により、スポーツ科学と栄養学の両面から人間健康学という学問領域を学ぶことを目的とし、両学科の連携を深め、相互交流できる協力体制を築き上げてきた。しかし、スポーツ分野および栄養分野におけるそれぞれの専門性の高度化により、両分野の学問領域が多岐・広範に渡るようになったのも事実である。そこで入学時点で、学部学科での学びの専門性が明確な複数学部を設置し、本来の専門分野を段階的に深化させることとする。具体的な体制変更としては、スポーツ健康学科と健康栄養学科からなる人間健康学部を廃止し、届出によりスポーツ科学部を設置しスポーツ科学科を置くこと、栄養学部を設置し栄養学科を置くこととしたい。 スポーツ科学部の目的は以下の通りである。幼児から高齢者まで、多くの国民が、生活の質（QOL）の向上を目指し、生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツ文化を享受・形成する時代となった。スポーツの機能として、心身両面にわたる健康増進、青少年の健全育成、地域コミュニティの醸成、経済発展への寄与、活力ある健全な社会の育成、国際交流への貢献などが挙げられる。このような社会の多様なニーズに応えるために、スポーツの自然・社会科学の理論を総合的に理解し、指導力、実践力、およびマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成する。そして、競技力の向上を図るアスリートや、健康増進を図る地域のスポーツ愛好者のための最先端のトレーニング法や健康づくり法などの総合的な能力を身につけるために、理論と実践の両面から学ぶ。それを通じて、スポーツに深くかかわり貢献できる、次代を担う人材を育成する。本学部の教育研究は、専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指し、それに必要な能力を習得させる。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	スポーツ科学部 [Faculty of Sports Science] スポーツ科学科 [Department of Sports Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	計	4	120	3年次 10	500	学士(スポーツ科学) [Bachelor of Sports Science]	令和3年4月 第1年次 令和5年4月 第3年次	石川県金沢市末町10の5番地	

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		金沢学院大学								
		・学部学科の届出設置及び廃止 ・スポーツ科学部スポーツ科学科 (120) (令和2年8月届出予定) (3年次編入学定員) (10) ・栄養学部栄養学科 (80) (令和2年8月届出予定) (3年次編入学定員) (5) ・人間健康学部スポーツ健康学科 (廃止) (△120) (3年次編入学定員) (△10) ※令和3年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和5年4月学生募集停止) ・人間健康学部健康栄養学科 (廃止) (△80) (3年次編入学定員) (△5) ※令和3年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和5年4月学生募集停止)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	スポーツ科学部スポーツ科学科	59科目	33科目	20科目	112科目	128単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	令和2年8月届出予定	
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
	新設分	スポーツ科学部 スポーツ科学科	7人 (7)	2人 (2)	2人 (2)	3人 (3)	14人 (14)	1人 (1)		19人 (19)
		栄養学部 栄養学科	8人 (8)	2人 (2)	0人 (0)	3人 (3)	13人 (13)	5人 (5)		21人 (21)
計		15 (15)	4 (4)	2 (2)	6 (6)	27 (27)	6人 (6)	－ (－)		
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
	既設分	文学部 文学科	9 (9)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	27 (27)	0 (0)		25 (25)
		教育学科	8 (8)	4 (5)	5 (6)	3 (3)	20 (22)	0 (0)		29 (29)
		経済学部 経済学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)		37 (37)
		経営学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)		28 (28)
		経済情報学部 経済情報学科	6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)		18 (18)
		芸術学部 芸術学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)		37 (37)
		基礎教育機構	5 (5)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)		0 (0)
		計	45 (45)	23 (24)	30 (31)	4 (4)	102 (104)	0 (0)		－ (－)
合計		60 (60)	27 (28)	32 (33)	10 (10)	129 (131)	6 (6)	－ (－)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計								
	事 務 職 員		65 人 (65)		4 人 (4)		69 人 (69)								
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)								
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)		1 (1)		5 (5)								
	そ の 他 の 職 員		3 (3)		19 (19)		22 (22)								
	計		72 (72)		24 (24)		96 (96)								
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		◆ 共用する他の学校 金沢学院短期大学 (必要面積:3,200㎡) ◆ 運動場用地(専用)借用面積:1,386㎡、期間:25年 ◆ その他(共用)借用面積:919㎡、借用期間10年 1,978㎡、借用期間21年(女子学生寮敷地)				
	校 舎 敷 地		0 ㎡		82,501 ㎡		0 ㎡		82,501 ㎡						
	運 動 場 用 地		35,590 ㎡		10,612 ㎡		0 ㎡		46,202 ㎡						
	小 計		35,590 ㎡		93,113 ㎡		0 ㎡		128,703 ㎡						
	そ の 他		31,610 ㎡		9,639 ㎡		0 ㎡		41,249 ㎡						
	合 計		67,200 ㎡		102,752 ㎡		0 ㎡		169,952 ㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		金沢学院短期大学と併用 (必要面積:3,650㎡)				
			16,288 ㎡ (16,288 ㎡)		16,984 ㎡ (16,984 ㎡)		5,107 ㎡ (5,107 ㎡)		38,379 ㎡ (38,379 ㎡)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体(一部、金沢学院短期大学と共用)			
		50 室		13 室		43 室		13 室 (補助職員 3人)		3 室 (補助職員 2人)					
専 任 教 員 研 究 室				新設学部等の名称				室 数							
				スポーツ科学部スポーツ科学科				20 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		図書は大学及び短期大学全体での共用分を含む 機械・器具、標本は大学及び短期大学全体での共用分を含む
	スポーツ科学部 スポーツ科学科		67,358[12,756] (64,030[12,704])		12[0] (12[0])		0[0] (0[0])		1,384 (1,216)		2,152 (2,152)		0 (0)		
	計		67,358[12,756] (64,030[12,704])		12[0] (12[0])		0[0] (0[0])		1,384 (1,216)		2,152 (2,152)		0 (0)		
図 書 館			面積		閲覧座席数				収 納 可 能 冊 数				大学全体		
			2,755 ㎡		335 席				229,914 冊						
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要										
			3,391 ㎡		屋内練習場				テニスコート						
経 費 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体				
		教員1人当り研究費等			300千円	300千円	300千円	300千円	—	—					
		共 同 研 究 費 等			900千円	900千円	900千円	900千円	—	—					
		図 書 購 入 費		1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—	—					
		設 備 購 入 費		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	—	—					
	学生1人当り 納付金		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
			1,200千円		1,060千円		1,060千円		1,060千円		— 千円		— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要					自己資金、資産運用収入 等										

	大学の名称	金沢学院大学									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部	年	人	3年次 人	人		1. 12		石川県金沢市末町 10の5番地	◆平成27年より学生 募集停止(日本文 学科・国際文化学 科・歴史文化学科)	
	文学科	4	150	10	620	学士(文学)	1. 22	平成27年度			
	日本文学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	昭和62年度			
	国際文化学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	昭和62年度			
	歴史文化学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成23年度			
	教育学科	4	70	5	300	学士(教育学)	0. 88	平成30年度			
	経営情報学部			3年次			－		同上	◆平成28年より学生 募集停止(経営ビ ジネス学科・経営シ ステム学科)	
	経営情報学科	4	－	－	740	学士(経営学)	－	平成28年度			
	経営ビジネス学科	4	－	－	－	学士(経営学)	－	平成18年度			
	経営システム学科	4	－	－	－	学士(経営学)	－	平成18年度			
	経済学部			3年次			1. 12		同上		
	経済学科	4	80	5	330	学士(経済学)	1. 00	令和2年度			
	経営学科	4	60	5	250	学士(経営学)	1. 28	令和2年度			
	経済情報学部			3年次			1. 12		同上		
	経済情報学科	4	70	－	280	学士(経済情報学)	1. 12	令和2年度			
	美術文化学部						－		同上		
	美術学科	4	－	－	－	学士(芸術学)	－	平成12年度			
	メディアデザイン学科	4	－	－	－	学士(学術)	－	平成12年度	同上	◆平成28年より学生 募集停止(美術文 化学部、美術学科・ メディアデザイン学 科)	
	芸術学部						1. 05		同上		
	芸術学科	4	70	－	140	学士(芸術学)	1. 05	平成28年度			
人間健康学部			3年次			1. 10		同上			
スポーツ健康学科	4	120	10	420	学士(スポー ツ健康学)	1. 21	平成23年度				
健康栄養学科	4	80	5	160	学士(栄養学)	0. 93	平成28年度	同上	◆平成29年度入学 定員増(20人:ス ポーツ健康学科), 編入学定員増(3年 次 10人:スポーツ健 康学科)		
大学院経営情報学研究科								同上 (サテライト教室:石川県金 沢市南町3番2号南町 中央ビル)			
経営情報学専攻 (博士前期課程)	2	10	－	20	修士(経営情 報学)	0. 50	平成11年度				
経営情報学専攻 (博士後期課程)	3	4	－	12	博士(経営情 報学)	0. 25	平成17年度	同上			
大学院人文学研究科								同上			
人文学専攻 (修士課程)	2	5	－	10	修士(文学)	0. 00	平成20年度				
大学院スポーツ健康学研究科								同上			
スポーツ健康学専攻 (修士課程)	2	5	－	10	修士(スポー ツ健康学)	0. 40	平成27年度				

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	金沢学院短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	幼児教育学科	年 2	人 50	年次 人 —	人 100	短期大学士 (幼児教育学)	倍 0.58	平成30年度	石川県金沢市末町10番地	
	現代教養学科	2	50	—	100	短期大学士 (教養)	0.89	平成28年度	同上	
	食物栄養学科	2	60	—	120	短期大学士 (栄養学)	0.85	平成17年度	同上	◆平成28年度入学 定員減(△20人:食 物栄養学科)
附属施設の概要		該当なし								

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(スポーツ科学部スポーツ科学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	学修基礎	1前	2				○		1			2		兼1 兼1 兼1 兼1
	キャリアデザインⅠ	1後	2				○							
	キャリアデザインⅡ	2前	2				○							
	キャリアデザインⅢ	2後	2				○							
	哲学Ⅰ	1前		2		○								兼1
	哲学Ⅱ	1後		2		○								兼1
	法学（日本国憲法）	1後		2		○								兼1
	心理学の基礎	2前		2		○								兼1
	経済学の基礎	1後		2		○								兼1
	生理学	2後		2		○					1			兼1 共同
	倫理学	2後		2		○								
	地域課題研究	1前		2			○					1		
	FSP講座	1前		2			○		2					兼1 兼1 兼1
	スポーツ科学	1前	2					○	1	1		1		
	コンピュータ基礎演習Ⅰ	1前		2			○							
	コンピュータ基礎演習Ⅱ	1後		2			○							
キャリア科目	キャリアプランニングⅠ	3前	2				○			1				兼1
	キャリアプランニングⅡ	3後	2				○			1				兼1
	インターンシップ実習	1通		1				○		1				
	教養科目 計（19科目）	一	14	23		一			3	2	1	2		兼6
外国語科目	英語Ⅰ	1前	2			○								兼3
	英語Ⅱ	1後	2			○								兼3
	英語コミュニケーションⅠ	2前		2		○								兼2
	英語コミュニケーションⅡ	2後		2		○								兼2
	中国語Ⅰ	2前		2		○								兼1
	中国語Ⅱ	2後		2		○								兼1
	朝鮮語Ⅰ	2前		2		○								兼1
	朝鮮語Ⅱ	2後		2		○								兼1
外国語科目 計（8科目）		一	4	12		一								兼7

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	専門 必修 科目	運動生理学	1前	2		○			1					兼1	オムニバス
		健康科学	1前	2		○			1						
		スポーツ心理学	1後	2		○			1						
		トレーニング論	1後	2		○			1		1				
		機能的解剖学	1後	2		○			1						
		運動学	2前	2		○			1						
		スポーツ栄養学	2後	2		○								兼1	オムニバス
		スポーツ経営管理	2後	2		○						1			
		運動発達・老化学	2前	2		○			1						
		体育原理	3前	2		○					1			兼1	オムニバス
		体育史	3前	2		○					1				
		スポーツ医学(救急処置を含む。)	3前	2		○					1				
		スポーツ社会学	3前	2		○						1		兼1	オムニバス
		専門演習Ⅰ	3通	4			○		4	2	2	3			
		専門演習Ⅱ	4通	4			○		4	2	2	3			
	小計 (15 科目)		—	34		—			5	2	2	3		兼2	
専門 科目	専門 選択 必修 スポーツ 実技 科目	スポーツ実技Ⅰ (水泳)	2前		1			○			1	1		兼1	共同 共同 共同
		スポーツ実技Ⅱ (体づくり・ニュースポーツ)	1後		1			○		1		1			
		スポーツ実技Ⅲ (陸上)	2前		1			○	1		1				
		スポーツ実技Ⅳ (テニス・バドミントン)	2後		1			○	1						
		スポーツ実技Ⅴ (バレーボール)	3前		1			○			1				
		スポーツ実技Ⅵ (ダンス)	3前		1			○						兼1	共同 オムニバス
		スポーツ実技Ⅶ (器械体操・トランポリン)	3後		1			○	1	1					
		スポーツ実技Ⅷ (柔道・剣道)	3後		1			○	2	1					
		スポーツ実技Ⅸ (ソフトボール)	2前		1			○				1		兼1 兼1	共同 共同
		スポーツ実技Ⅹ (野外スポーツ)	1後		1			○	1		1				
		スポーツ実技Ⅺ (卓球)	1後		1			○	1						
		スポーツ実技Ⅻ (ラグビーⅠ)	1前		1			○						兼1 兼1	共同 共同
		スポーツ実技ⅩⅢ (ラグビーⅡ)	2前		1			○							
		スポーツ実技ⅩⅣ (サッカーⅠ)	1前		1			○				1	1		
		スポーツ実技ⅩⅤ (サッカーⅡ)	2前		1			○				1	1	兼1	
		スポーツ実技ⅩⅥ (バスケットボール)	1後		1			○							
		スポーツ実技ⅩⅦ (野球)	3前		1			○				1		兼3	
	小計 (17 科目)		—		17	—			6	2	1	2	1	兼3	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	専門選択科目	地域とスポーツ	2後		2		○			1								
		スポーツメディア論	2前		2		○			1								
		スポーツマーケティング	2前		2		○						1					
		スポーツ文化論	3前		2		○					1						
		スポーツ法学	3前		2		○						1					
		スポーツファイナンス	3後		2		○							1				
		スポーツ政策論	3後		2		○							1				
		生命倫理	3後		2		○			1								
		プレゼンテーション演習	2前		2				○					1				
		情報活用演習	2通		4				○		2				1			オムニバス
		海外文献講読	2前		2				○		2		1					共同
		海外研修（スポーツ事情）	2前		2				○		1			1				共同
		スポーツ測定評価	1前		2				○		1							
		運動処方	1後		2			○			1							
		スポーツコンディショニング論	2前		2			○				1						
		スポーツコンディショニング演習Ⅰ	2後		1				○			1						
		スポーツコンディショニング演習Ⅱ	3前		1				○			1						
		コーチング論	3前		2			○			1							
		コーチング演習Ⅰ	3後		1				○		1							
		コーチング演習Ⅱ	4前		1				○		1							
		メンタルトレーニング論	3後		2			○			1							
		スポーツ技術・戦術論	3前		2			○			1				1			オムニバス
		武道論	1前		2			○				1						
		武道演習Ⅰ	1後		1				○			1						
		武道演習Ⅱ	2前		1				○			1						
		球技論	1前		2			○							1			
		球技演習Ⅰ	1後		1				○						1			
		球技演習Ⅱ	2前		1				○						1			
		スポーツ競技の心理	3後		2			○				1						
		スポーツイベント企画運営	3前		2				○		1							
		スポーツボランティア論	4前		2			○				1						
		スポーツボランティア演習	4前		2				○		1	1						共同
		競技者育成システム	4前		2			○			1							
		生涯スポーツ論	1前		2			○			1				1			オムニバス
		スポーツビジネス概論	1後		2			○			1							
		生活習慣病概論	1前		2			○									兼1	
運動生化学	2前		2			○			1									
衛生・公衆衛生学	2後		2			○									兼1			
学校保健	2後		2			○			1									
病理学	3後		2			○									兼1			
スポーツトレーナー演習	2前		2				○		3		1					共同		
レクリエーション論	2前		2			○					1							
公務員と法	3後		2			○							1					

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	専門選択科目	体力トレーニング実習	3前		1				○	1						兼1 共同 共同	
		資格柔道	3後		1		○				1						
		健康管理演習	3前		2			○		2		1					
		健康産業施設現場研修	3前		2			○				2					
		健康運動演習	4前		2			○				1			共同 共同		
		スポーツ統計学	1前		2		○					1					
		スポーツ技術指導演習	3前		2			○		4	2	1	3				
		サッカー指導演習	1通		2			○					1	1			
		保健体育科教育法Ⅰ	2通		4		○								兼1	兼1	
		保健体育科教育法Ⅱ	3通		4		○										
小計（ 53 科目）		—		102		—			7	2	2	3	1	兼2			
専門科目計（ 85 科目）			—	34	119		—			7	2	2	3	1	兼6		
総合計（ 112 科目）				52	154		—			7	2	2	3	1	兼20		
学位又は称号		学士（スポーツ科学）		学位又は学科の分野				体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
教養科目は必修12単位及び自然科学分野から4単位以上を含め20単位以上、外国語科目は必修4単位を含め8単位以上、専門科目では、専門基礎科目で32単位の必修科目、専門実践科目で32単位の必修科目を含め、100単位以上を修得し、合計128単位以上を修得しなければならない。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分				2学期					
								1学期の授業期間				15週					
								1時限の授業時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 既 設 ）														
（人間健康学部スポーツ健康学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	学修基礎	1前	2				○		5	2	2	3		共同
	キャリアデザインⅠ	1後	2				○		3	1	2	3		兼1 共同
	キャリアデザインⅡ	2前	2				○							兼1
	キャリアデザインⅢ	2後	2				○							兼1
	哲学Ⅰ	1前		2		○								兼1
	哲学Ⅱ	1後		2		○								兼1
	法学（日本国憲法）	1後		2		○								兼1
	心理学の基礎	2前		2		○								兼2 オムニバス
	経済学の基礎	1後		2		○								兼1
	生理学	2後		2		○					1			兼1
	倫理学	2後		2		○								兼1
	地域課題研究	1前		2			○					1		
	FSP講座	1前		2			○		1	1		1		共同
	スポーツ科学	1前	2					○		1		2		
	コンピュータ基礎演習Ⅰ	1前		2			○							兼1
	コンピュータ基礎演習Ⅱ	1後		2			○							兼1
キャリア科目	キャリアプランニングⅠ	3前	2				○			1				兼1
	キャリアプランニングⅡ	3後	2				○			1				兼1
	インターンシップ実習	1通		1				○		1				
教養科目 計（19科目）		一	14	23		一			6	2	2	3		兼7
外国語科目	英語Ⅰ	1前	2			○								兼3
	英語Ⅱ	1後	2			○								兼3
	英語コミュニケーションⅠ	2前		2		○								兼2
	英語コミュニケーションⅡ	2後		2		○								兼2
	中国語Ⅰ	2前		2		○								兼1
	中国語Ⅱ	2後		2		○								兼1
	朝鮮語Ⅰ	2前		2		○								兼1
	朝鮮語Ⅱ	2後		2		○								兼1
外国語科目 計（8科目）		一	4	12		一								兼7

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	専門必修科目	運動生理学	1前	2		○			1					オムニバス	
		健康科学	1前	2		○			1						
		スポーツ心理学	1後	2		○			1						
		トレーニング論	1後	2		○			1		1				
		機能的解剖学	1後	2		○			1						
		運動学	2前	2		○			1					兼2 共同	
		スポーツ栄養学	2後	2		○									
		スポーツ経営管理	2後	2		○						1			
		運動発達・老化学	2前	2		○			1						
		体育原理	3前	2		○					1				
		体育史	3前	2		○					1			兼1 オムニバス	
		スポーツ医学(救急処置を含む。)	3前	2		○					1				
		スポーツ社会学	3前	2		○						1			
		専門演習Ⅰ	3通	4			○		4	2	2	3			
		専門演習Ⅱ	4通	4			○		5	2	2	1			
	小計（15 科目）		—	34			—		5	2	2	3		兼3	
専門科目	専門選択必修スポーツ実技科目	スポーツ実技Ⅰ（水泳）	2前		1			○			1	1		共同 共同	
		スポーツ実技Ⅱ（体づくり・ニュースポーツ）	1後		1			○	1	1		1			
		スポーツ実技Ⅲ（陸上）	2前		1			○	1		1				
		スポーツ実技Ⅳ（テニス・バドミントン）	2後		1			○	1						
		スポーツ実技Ⅴ（サッカー・バレーボール）	3前		1			○			1				
		スポーツ実技Ⅵ（ダンス）	3前		1			○						兼1 共同 オムニバス	
		スポーツ実技Ⅶ（器械体操・トランポリン）	3後		1			○	1	1					
		スポーツ実技Ⅷ（柔道・剣道）	3後		1			○	2	1					
		スポーツ実技Ⅸ（ソフトボール）	2前		1			○				1			
		スポーツ実技Ⅹ（野外スポーツ）	1通		1			○	2		1	1		共同 兼1 兼1 共同 共同	
		スポーツ実技Ⅺ（卓球）	1後		1			○	1						
		スポーツ実技Ⅻ（ラグビーⅠ）	1前		1			○							
		スポーツ実技ⅩⅢ（ラグビーⅡ）	2前		1			○							
		スポーツ実技ⅩⅣ（サッカーⅠ）	1前		1			○				1	1		
		スポーツ実技ⅩⅤ（サッカーⅡ）	2前		1			○				1	1		
		スポーツ実技ⅩⅥ（バスケットボール）	1後		1			○						兼1	
		スポーツ実技ⅩⅦ（野球）	3前		1			○				1			
	小計（17 科目）		—		17		—		5	2	1	2	1	兼3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	専門 選択 科目	地域とスポーツ	2後	2		○			1					オムニバス 共同	
		スポーツメディア論	2前	2		○			1						
		スポーツマーケティング	2前	2		○						1			
		スポーツ文化論	3後	2		○					1				
		スポーツ法学	3前	2		○						1			
		スポーツファイナンス	3後	2		○						1			
		スポーツ政策論	3後	2		○						1			
		生命倫理	3後	2		○			1						
		プレゼンテーション演習	2前	2			○		1						
		情報活用演習	2通	4			○		2			3			
		海外文献講読	2前	2			○		2		1				
		海外研修（スポーツ事情）	2通	2			○		1			1			
		スポーツ測定評価	1前	2			○		1						
		運動処方	1後	2		○			1						
		スポーツコンディショニング論	2前	2		○				1					
		スポーツコンディショニング演習Ⅰ	2後	1			○			1					
		スポーツコンディショニング演習Ⅱ	3前	1			○			1					
		コーチング論	3前	2		○			1						
		コーチング演習Ⅰ	3後	1			○		1						
		コーチング演習Ⅱ	4前	1			○		1						
		メンタルトレーニング論	3後	2		○			1						
		スポーツ技術・戦術論	3前	2		○			1			1			オムニバス 共同
		武道論	1前	2		○				1					
		武道演習Ⅰ	1後	1			○			1					
		武道演習Ⅱ	2前	1			○			1					
		球技論	1前	2		○						1			
		球技演習Ⅰ	1後	1			○					1			
		球技演習Ⅱ	2前	1			○					1			
		スポーツ競技の心理	3後	2		○				1					
		スポーツイベント企画運営	3後	2			○		1						
		スポーツボランティア論	4前	2		○				1					
		スポーツボランティア演習	4通	2			○		2					共同 兼1 兼1 兼1 共同	
		競技者育成システム	4前	2		○			1						
		生涯スポーツ論	1前	2		○			1						
		スポーツビジネス概論	1後	2		○			1						
		生活習慣病概論	1前	2		○									
		運動生化学	2前	2		○			1						
		衛生・公衆衛生学	2後	2		○									
		学校保健	2後	2		○			1						
		病理学	3後	2		○									
		スポーツトレーナー演習	2前	2			○		3		1				
		レクリエーション論	2前	2		○					1				
		公務員と法	3後	2		○						1			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	専門選択科目	体力トレーニング実習	3前		1				○	1						兼1 共同 共同	
		資格柔道	3後		1		○				1						
		健康管理演習	3前		2			○				1					
		健康産業施設現場研修	3前		2			○				2					
		健康運動演習	4前		2			○				1					
		スポーツ統計学	1前		2		○					1					
		スポーツ技術指導演習	3前		2			○		4	2	1	3		共同 共同		
		サッカー指導演習	1通		2			○					1	1			
		保健体育科教育法Ⅰ	2通		4		○								兼1		
	保健体育科教育法Ⅱ	3通		4		○								兼1			
小計（ 53 科目）		—		102		—			7	2	2	3	1	兼2			
専門科目計（ 85 科目）		—	34	119		—			7	2	2	3	1	兼5			
総合計（ 112 科目）			52	154		—			7	2	2	3	1	兼19			
学位又は称号		学士（スポーツ健康学）		学位又は学科の分野				体育関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
教養科目は必修12単位及び自然科学分野から4単位以上を含め20単位以上、外国語科目は必修4単位を含め8単位以上、専門科目では、専門基礎科目で32単位の必修科目、専門実践科目で32単位の必修科目を含め、100単位以上を修得し、合計128単位以上を修得しなければならない。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））							1 学年の学期区分				2 学期						
							1 学期の授業期間				1 5 週						
							1 時限の授業時間				9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要				
(スポーツ科学部スポーツ科学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学修基礎	学修基礎	学 修 基 礎	コンピュータネットワークを利用した各種の教育システム（Campusmate, Gmail, Moodle, ePortfolio等）へのログイン方法を説明する。また、Moodle環境下でのUeLAによるWEBテストを行い、基礎学力の向上に取り組む。	共同
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	本講義は、本学での充実した学びのための基本的な知識、情報を提供するとともに、卒業後のキャリアプランを描くための考え方を理解する。そのために、ゲストやメンバーとの対話、ワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、振り返りによって個々の「気づき」を促すためのプログラムが中心となっている。	共同
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	本講義は、「働くとは」「企業（組織）とは」「職場の多様性」等、それぞれのキーワードについて深く考えることで受講生一人一人が、他者を通じた自己分析、自身の今後の仕事への向き合い方、他者との付き合い方、大事にしたい価値観等、将来を考える上で必要なことを見出せるようデザインされている。	共同
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン III	本講義は、勤労観（なぜ働くのか）、職業観（働くイメージ）を醸成し、自らの進路を考え選択する実践的な能力及び総合的な就業力を育成する。具体的には、自分を知り、企業を知る（企業分析・インターンシップ）ことによって求められる能力を知り、自分に足りない「基礎学力」「文章力」「対話力」を伸ばし、社会で活躍できる力をつけられるようデザインされている。	共同
	教養科目	哲 学 I	知識には客観性が求められるが、その性格上、主観的と言える信念に留まらざるを得ないものがある。この種の信念と知識全体との整合性をつける為に、信念を幾つか取り上げて概説的に論じ、哲学の性格を理解する。受講生には、信念間の対立軸を理解して、出来るだけ整合的に考える態度を養うことが求められる。	
		哲 学 II	「我思う、ゆえに我有り」を不動の原点としたデカルトに視点を定め、自然科学の勃興などの背景やその形而上学の内容を講義し、心身二元論の論拠を吟味する。次に現代の行為論、及び言語哲学の立場から「心の存在」に対してどのような態度を取るべきかを示唆し、実体としての精神が不在とすると、それは自己のアイデンティティの問題に波及するので、これをどのように考えるべきかを検討してみる。	
		法 学 （ 日 本 国 憲 法 ）	この授業では、これからの生活に有効活用できる法的思考能力の育成を目指す。特に、ここでは憲法の基本的人権を中心に、個人の権利と社会の関係を理解した上で、今日的な問題を検討するなど、法律の基礎知識の習得と、それに基づいた問題解決能力の育成を目指す。	
		心 理 学 の 基 礎	心理学は、心の働きを科学的な手法によって明らかにしようとする学問である。実証的手法によって見出された客観的な事実に基づいて、種々の行動とその背景にある心の働きの法則を見つけ出すことを目的としている。受講生は、このような心理学の研究手法について理解するとともに、実証的手法によって得られた心理学の各分野における主要な知見について理解を深める。	
		経 済 学 の 基 礎	経済とはどういうもので、日本の経済は全体としてどうなっているのかを順序だてて説明する。また、企業、ボランティア部門、政府に分けて、それぞれの役割について説明し、人にやさしく暖かい経済をだれがどうやって支えて行くのかを理解させる。	
		生 理 学	身体運動では、生体内の各種機構がホメオスタシスを維持するために絶えず働く。本講義では、人体の各機構がいかに正常の機能を維持し、1個体（ヒト）としての機能を発揮しているかを概説する。生体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う。	
		倫 理 学	① 目的論的倫理学について概説する。この倫理学に属する幸福主義や利己主義の説明を詳細に行い、これらを批判的に検討することによって、社会倫理を学び、一般的な人間像、及び自己という人間のあり方を一段と深く学ぶ。 ② 目的論的倫理学の対立軸をなす義務論的倫理学について概説し、社会道徳に関する理解を深め、自分の倫理的信念に対する一層の理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	地域連携	地 域 課 題 研 究	地域の課題について、自らが主体となって構想し、解決に向けて提言していくものである。具体的には、地域社会に目を向け、よりよい社会を築くためにはどうしたら良いか、問題提起や問題解決のための課題の設定方法などについて概説しながら、チームワークを実施。地域社会の課題解決学習を通じて自分自身の地域社会への関わり方や将来の生き方・あり方について考える。	
		FSP 講 座	キャリアプランニングとは、自身の人生の中でも特に「職業人生」について、自らが主体となって構想し、実現させていくものである。本講義では、大学と企業が連携した「産学協同PBL型講座」において、チームワークを実施する。	共同
	スポーツ科学	ス ポ ー ツ 科 学	(5 福井卓也) 学校体育のベースボール型として指定されているソフトボールは、競技スポーツ・生涯スポーツ・レクリエーションスポーツとして幅広い年齢層に親しまれている。ソフトボールは、投げる・打つ・捕る・走るなどの運動の基本動作から構成され、バランスのとれた運動能力を養うことができるスポーツである。ソフトボールに加え、ベースボール型の様々な種目に触れることで、基本的動作および教養を習得する。またチームスポーツで必要とされる協調性や責任感、指導者に必要とされる安全に競技運営ができる能力や態度を身につけることを目的とする。	
			(8 丸山章子) 各種スポーツの運動技術の習得と、ゲームの企画及び運営を行える能力を養う。身体運動を実践することにより、自己の身体について認識し、その多面性を理解するとともに生涯スポーツの観点から、人間と運動・スポーツの関わりについて考える。各種スポーツ種目の基礎技術・基本フォーメーション・戦術の習得とルール・マナー、審判法を学び試合を実施する。また、ビデオによる動作分析をしながら基本技術・応用技術の獲得を目指す。	
	キャリア科目		(14 諸江真一) サッカーは、心身の総合的な能力を必要とする競技である。そのようなサッカーを科学し、サッカーの理解を深め、実践につなげる。そのために、文献調査、インターネット検索、聞き取り調査、映像分析、アンケート調査等を実施し、その結果を実践に活かす。併せて、ペアワークやグループワーク等を利用し、協同しての探求活動の中で、相互に理解を深める。	
		コンピュータ基礎演習Ⅰ	高等学校での情報科の知識を踏まえてインターネットによる情報収集の技術、文書作成や表計算ソフトの基本操作を身に付けさせる。コンピュータリテラシーの導入として、コンピュータの仕組みやネットワークの知識を学修し、インターネットを構成するシステムの基礎を理解させ、そのアプリケーションとして電子メールや情報検索に関する演習を行う。さらに、wordを利用して様々な文書を作成するための基礎、Excelを利用してデータ処理などの基礎を習得する。	
		コンピュータ基礎演習Ⅱ	本演習では、前期の演習で身に付けた知識や技術をもとに、情報を発信させるための技術や情報倫理などの基礎知識を習得する。情報を発信させること、および情報化社会に関わるためにはコミュニケーション力が求められ、プレゼンテーションにはPowerPointの利用は必要不可欠であり、本演習ではその基本操作を習得させる。さらに、モバイル機器は現代人の必須のツールであり、それとコンピュータとの同期操作、情報セキュリティや情報モラルとその具体的な活動などに関する知識を深め、情報倫理の基礎を理解する。	
		キャリアプランニングⅠ	社会人になるために必要な基礎知識の修得を目的とする。ここでは、自己分析や企業研究などの方法を学ぶことを通じて、より主体的、実践的に就職活動に取り組む姿勢を身につけることを目標とする。また、近年のウェブテスト、筆記試験の多様化に対応した勉強法についても身につける。	共同
		キャリアプランニングⅡ	就職活動を始めるに当たり、必ず必要となる事項についてより実践的な力を身につけることを目的とする。ここでは、就職活動や面接に際して必要となる基本的マナーから服装や着こなしまで幅広く学ぶとともに、さまざまな場面を想定した模擬面接を行う。また、履歴書・エントリーシートなどの書き方についても指導する。	共同
		インターンシップ実習	研修プログラムを基に必要なガイダンスを受け、社会人としてのマナーを身につけて、企業研究により仕事に対する意識を十分に高めた上で、企業や公的機関等でインターンシップを行う。実習後は、これまでの学修と実際の就学体験との検証を踏まえて成果発表会を行い、報告書を作成する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語 I	この授業では、TOEICテスト対策を見据えた教材を使い、TOEIC頻出語彙に触れながら、英語の4技能（Listening、Speaking、Reading、Writing）を身につけるための基礎として不可欠な英文法を、基本から確実に修得する。同時に、英文法の基礎的な知識を用いて、英文パッセージを読み、英文の読解力を身につける。また、多様なスピーカーの音声を通して複数国の英語の音に慣れる。以上の言語活動を通して、話し手に聞き手、書き手に読み手といった双方向のコミュニケーション能力を養う。	
	英語 II	英語 I に引き続き、TOEICテスト対策を見据えた教材を使い、TOEIC頻出語彙の定着に努めながら、英語の4技能（Listening、Speaking、Reading、Writing）を身につけるための基礎として不可欠な英文法を、基礎から確実に修得する。同時に、英文法の基礎的な知識を用いて、英文パッセージを読み、英文の読解力を身につける。また、多様なスピーカーの音声を通して複数国の英語の音に慣れる。以上の言語活動を通して、英語の基礎力を固め、その運用能力を高めるとともに、総合的なコミュニケーション能力を養う。	
	英語コミュニケーション I	(25 山岸由美子) L. A. に留学中の日本の大学生がホームステイ先で知り合った若者たちとの日常生活を通して、基本的な会話表現が身に付くように教科書は工夫されている。教科書には付随した映像があり、字幕ありなしの機能もあり、映像の場面にいるかのように音声練習や英語表現の練習ができる。授業の中で、活発なレッスンを行いたい。さらに、基本的な文法力も復習し、確かな英語力が身に付くことを目標とする。 (22 ロバート・カニンガム) 英語文化圏の人々の日常生活における通勤・通学、買い物、住居など衣食住に関わる題材を通して、人々の生活事情について理解を深める中で、身近で使用頻度の高い英語表現を身につけ、また、日常生活のコミュニケーションに不可欠な文法事項の定着を図り、生活に密着したコミュニケーション能力を養う。	
	英語コミュニケーション II	(25 山岸由美子) 英語コミュニケーション I に引き続き、L. A. に留学中の日本の大学生がホームステイ先で知り合った若者たちとの日常生活を通して、基本的な会話表現が身に付くように工夫された教科書を使用する。教科書には付随した映像があり、字幕ありなしの機能もあり、映像の場面にいるかのように音声練習や英語表現の練習ができる。授業の中で、活発なレッスンを行いたい。さらに、発展的な文法力も復習し、より確かな英語力が身に付くことを目標とする。 (22 ロバート・カニンガム) 英語コミュニケーション I の学習を踏まえ、英語文化圏の人々の日常生活における衣食住に関わる題材を通して、人々の生活事情について理解を深める中で、身近で使用頻度の高い英語表現を身につける。また、日常生活のコミュニケーションに不可欠な文法事項の定着を図り、生活に密着したコミュニケーション能力の一層の向上を図る。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	中国語 I	本授業は中国語入門としての必要な基礎知識を習得する。発音・声調・中国語簡体字・文の基本構造を正しく把握できるための繰り返し練習や・関わる中国の事情への理解によって、中国語による初歩的コミュニケーション能力を身につけていく。	
	中国語 II	中国語の基礎を引き続き学習し、その背景にある知識（中国事情）を垣間見る。	
	朝鮮語 I	朝鮮語の言語的特徴を説明し、発音や文法に関する日本語との共通点や相違点を意識させる。朝鮮語で用いられている文字とその発音に慣れ、終声規則などの音変化の規則を身につけることにより、簡単な文の発音ができるようにする。また、助詞の使い方や用言の終止形の作り方を習得し、基本的な文を話し、読解できる基礎固めをする。発音練習および発話練習を多く取り入れ、聴き取りや発音の定着を図るとともに、挨拶文をはじめとする定型表現も覚え、簡単な会話が行えるようにする。基本的な文字の発音と文の作り方を習得できることが到達目標である。	
	朝鮮語 II	「朝鮮語 I」では触れなかった発音の規則を説明し、ほとんどの文の発音ができるようにする。待遇法や時制に関わる用言の基本的な活用形、身近なものごとを表す単語、数詞や代名詞などを習得すると同時に、私的な話題、食べ物などの身近なことについて伝えられるよう、自己紹介や日常生活でよく使われる表現を中心に学習する。発音練習や作文練習を取り入れ、学習事項の定着を図る。読解に関しては、知的好奇心が湧くような、歴史や現代文化などの内容を取りあげ、辞書を引いて簡単な文章を読めるようにする。発音を完全なものにし、基本的な活用を習得することにより、会話や読解の基礎を固めることが到達目標である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門必修科目	運動生理学	ヒトの運動の生理機能について、神経機能、感覚機能、筋機能、および呼吸循環機能の側面から学ぶとともに、健康増進につながる、肥満・生活習慣病の克服に貢献できる運動療法やトレーニング法について学ぶ。	
		健康科学	スポーツ活動を通じての健康増進法について、特に健康寿命の延伸に関連する要因について学ぶ。これに強く関連する人体の生理機能について、エネルギー代謝、筋活動、運動調節等の側面から学ぶとともに、スポーツ活動での減量法やトレーニング法について学ぶ。	
		スポーツ心理学	人間が行動、活動としてスポーツを行う上で、スポーツと人間の心理的メカニズムを理解することは学習においても指導においても有用である。そこで、スポーツが人格形成に及ぼす影響や、個人の性格やとりまく環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響することやスポーツへの動機づけ、効果的なスポーツ指導の具体的な方法論を理解する。そして、スポーツ選手の臨床心理的問題とスポーツによる健康面での行動変容について検討する。	
		トレーニング論	この講義では、健康づくりのための運動やスポーツ選手の競技力向上において欠かすことのできない種々のトレーニング理論、方法論について学習する。そして、各種のトレーニング方法を組み合わせながら、目的に応じて適切な目標と課題の設定を計画立案するための実践力を身につけ、安全で効果的なトレーニングができることを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (10 清田直恵/7回) 基本的なトレーニングの原理・原則について解説する。また、行動体力別に、主となる身体機能とそのトレーニング理論および方法論について概説する。自身のトレーニングにおける目的と方法を明確に設定できることを目標とする。 (7 渡辺涼子/8回) 前半で学んだ基礎理論をもとに、トレーニングの目的に応じた適切な目標と課題設定を計画立案するための実践的な方法を学ぶ。さらに、より適切で有効なトレーニングを行うためのプログラムの立て方や結果の評価方法についてもふれ、安全で効果的なトレーニングができることを目指す。	オムニバス
		機能的解剖学	人体を構成する骨、筋肉について解剖学的な知識を習得する。その際に、その知識をスポーツにおける各種運動様式との関連性でとらえる。足、足関節、膝関節、股関節、骨盤、体幹、肩関節、肘関節、手関節、手の運動に関わる骨格・筋の構造についての知識を修得する。	
		運動学	この授業では、人間のスポーツ運動をひとつのまとまりのある運動として捉えることにより、競技実践や今後のスポーツ指導に役立つ基礎を提供するものである。様々なスポーツ場面で行なわれる人間の運動について、動きの質的視点からとらえた諸徴表（運動の局面構造、運動のリズム、運動の伝導、運動の流動性、運動の正確性など）や運動学習、運動の発達、運動の指導方法、さらにバイオメカニクスの基礎知識を理解する。	
		スポーツ栄養学	スポーツ・運動の定義やスポーツ・運動効果を高めるための適切な食生活について概説する。トレーニング期、試合期、休養期の栄養管理について習得する。さらに、競技種目別やライフステージ別にスポーツ・運動と栄養について概説する。	
		スポーツ経営管理	スポーツ産業の広がりから、スポーツをマネジメントする必要性が増している。そのスポーツマネジメントの基礎知識と理論的枠組みを学び、様々な組織や現場（学校、地域、職場、プロスポーツなど）で応用できるマネジメント能力を身につける。そのためにスポーツの現状や課題を取り上げ、マネジメントの視点から概説していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門必修科目	運動発達・老化学	身体の機能について、行動体力という観点から、体格（形態・姿勢）、筋力、全身持久力、運動調整力に分類し、その発達と老化の様相について概説する。健康科学および脳科学の最新知見を踏まえて、体力と運動技能の育成・老化予防のためのトレーニング法についても解説する。	
		体育原理	身体を動かすことで、その機能が変化することについての探求のはじまりは、古代ギリシャ時代にさかのぼり、運動と身体の関係が哲学的に探究され、そして一方では医学的に調べるが行われてきた。スポーツ科学の源流といえよう。本講義では、前者の立場から、スポーツの起源から今日までのスポーツの歩み全体を理解し、スポーツやそれを行う身体が歴史的に、哲学的にどのように捉えられてきたかというスポーツの意味について考察する。具体的には、西洋文化のプレイ論、東洋・中国哲学における身体論、現代哲学における身体論などである。次に、文化としてのスポーツについて論じ、教育としてスポーツ文化を学ぶ大切さを考える。現代スポーツを論ずる場合に避けられない倫理的な問題については、現代スポーツが抱えるオリンピズムを含めた現代のスポーツのあり様の変遷、スポーツルール論やドーピング、人権や政治との関係などについて考察していく。	
		体育史	体育の概念の成立はヨーロッパにおいては近代以降、我が国においては明治以後のことであるが、いわゆる身体活動は古代ギリシャより様々な形態で行われてきている。体育やスポーツがどのような形で現在のものに結び付いたのか理解する。体育やスポーツの意義は、時代と場所で変化することを認識し、また、身体観も変遷してきた。古代ギリシャ・ローマの古典的体育思想を概観した上で、18～19世紀における近代欧米体育思想史をドイツ体操論とイギリススポーツ教育論を中心に考察する。我が国の近代体育史については武芸の始まりから明治以降現代までを通史的にみる。体育・スポーツが今後どのように発展し、発展させていかなければならないのかを歴史的な観点から理解する。	
		スポーツ医学 （救急処置を含む。）	この講義では、スポーツと健康についての総論から、スポーツ選手の健康管理、スポーツに関係した病気、トレーニングによる生理的適応現象、生涯にわたる人の健康、スポーツ競技力向上のための科学、スポーツ中に生じる障害の解説とその予防に関して学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （10 清田直恵/8回） 各種のスポーツ外傷・障害について、上肢・下肢・体幹・頭頸部に分けて概説する。それぞれの受傷機転や症状とともに、その予防法や発症時の救急処置法、競技復帰に向けたリハビリテーション、テーピング法など、実際の競技現場での実践を見据えた知識の習得を目標とする。 （19 櫻田惣太郎/7回） 熱中症、高山病、心疾患、貧血、過換気症候群、オーバートレーニング症候群、摂食障害など、スポーツ活動中に起こりやすい内科疾患や精神疾患について学習する。それぞれの疾患の発生原因や症状について学び、予防や発症時の適切な対応が可能となる知識の習得を目標とする。	オムニバス
		スポーツ社会学	スポーツはひとつの社会である。同時に現代社会の一部でもある。本講義ではスポーツと社会の関係について全体像と特色を指摘し、様々な角度から説明する。そこではスポーツが商業化していくなかでアマチュアリズムの伝統がどのように変容したか、社会教育の一環としてスポーツやレクリエーションはどのように位置づけられるか、ジェンダーについての社会意識の変化がスポーツにどのように影響したかなどの具体的場面を取りあげる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門必修科目	専門演習Ⅰ	(3 外山寛) テーマ（運動学習、電気生理、運動学測定法）を設定し、基礎的な知識を教授する。また、そのデータの収集と解析を指導する。	
			(5 福井卓也) スポーツの運動指導の基礎となるスポーツにおける運動それ自体を対象として、運動の分類と体系化、運動の構造、運動発達、運動学習などについて、興味あるテーマを設定し、各種スポーツの特性や技術戦術についての資料を収集し、レポートを作成し、発表する。	
			(6 藤原勝夫) 2年次までに習得したスポーツの基礎的な知識を踏まえて、専門分野（運動生理、バイオメカニクス、認知科学）のテーマに沿ってその基礎的な知識を習得するとともに、研究技法の基礎を学修する。	
			(7 渡辺涼子) スポーツコーチングについてテーマごとに学生が少人数グループに分かれて、情報の集め方、資料の読み方と分析のしかた、レポートのまとめ方、発表や討論を通じてテーマを展開する方法などの研究技法を学ぶ。また、柔道の指導者資格について必要な知識（講義、実技）と指導方法について学ぶ。	
			(8 丸山章子) スポーツにおけるコンディショニング、メンタルトレーニング、心理的問題についての基本知識を深め、そのなかで興味関心あるテーマについて、文献収集などによって理論とその実践方法についてまとめ発表討論会を行い、競技や指導の場面で実践できる能力を養う。	
			(9 渡辺直勇) これからの学校体育では武道が必修化され、教育の現場に現れる機会が増えることから、武道について、その歴史と理念、コーチング指導、国際化などといったさまざまな武道の知識や特性について興味あるテーマを選択し資料を収集しまとめ発表する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 必修 科目	専門演習Ⅰ	(10 清田直恵) 専門分野（神経生理、機能回復、健康増進）のテーマに沿ってその基礎的な知識を習得するとともに、研究技法の基礎を身につける。	
			(11 山脇あゆみ) 個別テーマごとに学生が少人数グループに分かれて、担当の専任教員の指導のもと、専門分野の基礎的な知識・技能を修得するだけでなく、情報の集め方、資料の読み方と分析のしかた、レポートのまとめ方、発表や討論を通じてテーマを展開する方法などの研究技法を学ぶ。 体育史の研究手法・文献収集の方法を学ぶとともに、野外教育についての基礎知識を習得する。	
			(12 野寺巧寛) スポーツ法学、スポーツ政策論、スポーツ社会学などの学問領域に関する研究対象を設定し、研究方法を学ぶ。具体的には、情報の集め方、資料の読み方と分析の仕方、レポートのまとめ方、発表の仕方を学ぶ。さらに、発表やディスカッションを通じて、研究を深めるとともに卒業研究の遂行に備える。	
			(13 棟田雅也) スポーツマネジメントを学ぶための基本的知識と論理的思考の習得を目的とする。具体的には質問紙調査票の作成とスポーツ観戦者・参加者を対象とした調査を実施し、市場調査の方法について学ぶ。それらを基に卒業論文の製作に向けた研究テーマの設定や研究・分析手法の選択方法、プレゼンテーションについて概説する。	
			(14 諸江真一) サッカーの戦術をテーマとし、サッカーの戦術を3つ（個人戦術、グループ戦術、チーム戦術）に分け、考察をしていく。研究の方法として文献調査、映像分析を用いて、実際のゲームを検証していく。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 必修 科目	専門演習Ⅱ	(3 外山寛) 「専門演習Ⅰ」で修得した研究方法を用いて、研究計画を立て、それに基づいて実験・調査等を行う。収集したデータの解析を行い、その結果について考察および議論を行う。さらに、研究計画案に従って進めてきた研究内容を中間発表会で報告する。教員からの助言や指摘等をもとに、新たな研究課題や目標を設定し、研究を進める。	
			(5 福井卓也) 「専門演習Ⅰ」を踏まえて、各種スポーツの特性や技術戦術等、個別テーマごとに学生が少人数グループに分かれて、専門分野の学習をさらに深め、自己のテーマを発見し追求する能力を養うと同時に、卒業後の職業生活への移行が円滑に行えるよう、明確な課題意識の形成とその実現能力の養成も指導の視野に入れる。	
			(6 藤原勝夫) 「専門演習Ⅰ」で修得した研究方法を用いて、研究計画を立て、それに基づいて実験・調査等を行ってデータを収集し、データの数値解析や統計分析を行い、その結果について考察および議論を行う。さらに、研究計画案に従って進めてきた研究内容を中間発表会で報告する。これらに対して、助言や指摘等を行うことにより、卒業論文を完成させる。	
			(7 渡辺涼子) 「専門演習Ⅰ」を踏まえて、スポーツコーチングについて、個別テーマごとに学生が少人数グループに分かれて、専門分野の学習をさらに深め、自己のテーマを発見し追求する能力を養うと同時に、卒業後の職業生活への移行が円滑に行えるよう、明確な課題意識の形成とその実現能力の養成も指導の視野に入れる。	
			(8 丸山章子) 「専門演習Ⅰ」を踏まえて、スポーツにおけるコンディショニング、メンタルトレーニング、心理学的問題について、個別テーマごとに学生が少人数グループに分かれて、専門分野の学習をさらに深め、自己のテーマを発見し追求する能力を養うと同時に、卒業後の職業生活への移行が円滑に行えるよう、明確な課題意識の形成とその実現能力の養成も指導の視野に入れる。	
			(9 渡辺直勇) 「専門演習Ⅰ」を踏まえて、武道の歴史やコーチング等、個別テーマごとに学生が少人数グループに分かれて、専門分野の学習をさらに深め、自己のテーマを発見し追求する能力を養うと同時に、卒業後の職業生活への移行が円滑に行えるよう、明確な課題意識の形成とその実現能力の養成も指導の視野に入れる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門必修科目	専門演習Ⅱ	(10 清田直恵) 「専門演習Ⅰ」で修得した研究方法を用いて、研究計画を立て、それに基づいて実験・調査等を行ってデータを収集し、データの数値解析や統計分析を行い、その結果について考察および議論を行う。これらに対して、助言や指摘等を行うことにより、卒業論文を完成させる。	
			(11 山脇あゆみ) 個別テーマごとに学生が少人数グループに分かれて、担当の専任教員の指導のもと、専門分野の基礎的な知識・技能を修得するだけでなく、情報の集め方、資料の読み方と分析の仕方、レポートのまとめ方、発表や討論を通じてテーマを展開する方法などの研究技法を学ぶ。 体育史の研究方法・文献収集の方法を学ぶとともに、野外教育についての基礎知識を習得する。また、それらの知識・技術を用いて卒業研究を行う。	
			(12 野寺巧寛) 「専門演習Ⅰ」で設定したテーマについて、卒業論文の完成に向けて研究を深める。具体的には、論理的に論文を構成する方法や論文執筆における作法を学ぶ。また他者の研究に対する適切な批評の仕方を習得し、実践する。	
			(13 棟田雅也) 「専門演習Ⅰ」で習得したスポーツマネジメントの基本的知識と論理的思考を基に卒業論文を制作する。具体的にはスポーツマネジメントに関連した先行研究のレビュー方法やデータの収集・分析手法、結果・考察の書き方について概説する。	
			(14 諸江真一) 「専門演習Ⅰ」で修得したサッカーの戦術の理解を発展させていく。卒業論文の作成に向けて計画を立てて「専門演習Ⅰ」で得た知識・技能をもとに、新たに情報を収集し、検討することでサッカーの理解を深める。これらに対する考察および議論についての指導・助言を行うことにより、卒業論文を完成させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択必修スポーツ実技科目	スポーツ実技Ⅰ（水泳）	4泳法（バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・クロール）の特性を理解し、4泳法全ての技術習得を目指す。また、トレーニング方法や指導法も併せて学びスポーツ指導者として必要とされる泳力を身に付ける。初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」を学び、多様な泳法技術習得へと展開していく。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮についても理解を深める。	共同
		スポーツ実技Ⅱ（体づくり・ニュースポーツ）	学校教育で実施される既存のスポーツ種目ではなく、新しいスポーツ種目が生涯スポーツとして全国各地で実施されている。本実技では、我が国において比較的普及率の高い種目を取り上げ、その種目に必要なからだづくりと、そのルールを理解し、技術を学習してゲームを体験する。これらのスポーツは、これまでスポーツに親しんできた人だけでなく、スポーツを苦手にしてきた人、あるいは技術や体力に不安がある人にも気軽に親しめることを主眼に置いて普及されてきたものである。したがって体験するだけでなく指導、普及という観点からさらに実践指導への応用を目指す。	共同
		スポーツ実技Ⅲ（陸上）	各種目の特性を理解し、トレーニングの方法を含めた指導法などについても学習する。記録会においては、短距離走、長距離走、障害走、跳躍種目、投擲種目の個人5種目において基準記録を設定し、全種目において基準記録を合格しなければならない。したがって、授業時には基本的な動作の学習と習得に重点がおかれ、能力向上のトレーニングについては受講者の自主的な時間外練習が強く望まれる。各回の授業においてはウォーキングとジョギングを含めたウォーミングアップを実施し、授業ノート（学習した技術、学習において工夫したところ、試験記録会を含めての感想）の提出が求められ、陸上競技が指導できる能力を養う。	共同
		スポーツ実技Ⅳ（テニス・バドミントン）	テニスとバドミントンという関連あるいは類似しているよう使用するラケットもコートもルールも全く異なるストリングス系ラケット競技を題材とし、その基礎的・応用的な技術を習得することで両者の違いを学び、両者の指導ができる理論的、技術的な力をつける。練習や試合を通じて競技特有の楽しさ・醍醐味を理解し、スキル向上による自己決定や有能さの認知を目指すし、仲間とコミュニケーションを取りながら協力して試合を運営する力を身につける。各回の授業においては授業ノート（学習した技術、学習において工夫したところ、試合を含めての感想）の提出が求められ、テニス、バドミントンが指導できる能力を養う。	
		スポーツ実技Ⅴ（バレーボール）	バレーボールを通して、球技における実践方法と指導方法の獲得を主目的とし、技術と戦術の基本を理解し、少人数から最終的に6人制、9人制のバレーボールまで発展させることを学ぶ。技術の獲得のみならず、技術や初歩的戦術を理解し、自らが指導者として実践できるレベルを目指す。さらには、生涯にわたりスポーツを楽しむ態度を養成し、身体運動をとおして社会的スキルを身につける。	
		スポーツ実技Ⅵ（ダンス）	ダンスは我々人間の生活と深く結びつきながら、様々に形態を変えて発展してきた。本授業で取り上げる「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」「創作ダンス」のそれぞれの特性を理解し、「踊る」「創る」「観る」という活動を通して、自身の身体をコントロールし、ダンスの表現方法について学ぶ。また健康づくりのための運動である「エアロビックダンス」の理論と実際についても学ぶ。更には、ダンス及びダンスエクササイズの実技指導方法を模索することにより、実技指導の能力向上を図る。	
		スポーツ実技Ⅶ（器械体操・トランポリン）	マット運動、鉄棒、トランポリンといった体操は、全身運動であり、また、バランス感覚も必要であることから、様々なスポーツのトレーニングや調整力養成に幅広く利用されている。この講義では、マット運動、鉄棒、トランポリンにおける基礎的技術と補助法を習得し、体操における技術の基本的理論を理解し、安全に指導できる能力を養う。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択必修スポーツ実技科目	スポーツ実技Ⅷ (柔道・剣道)	武道の歴史や、日本固有の運動文化である武道の特性について学ぶ。実技においては、それぞれの基本動作を中心に技術を習得し、個人の体力や能力に応じた安全で効果的な練習方法によって、技術の理解と向上をはかる。更に、試合審判規定についても学び、試合を行う中で審判技術の習得と向上を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (4 平井敦夫/5回) 基本動作や基本となる技ができるようになり、相手の動きに応じて自由練習や簡単な試合が出来ることを目指す。 (7 渡辺涼子/5回) 初心者を中心に、礼法や基本動作、基本的な技について学び、武道の楽しさや魅力について体験する。 (9 渡辺直勇/5回) 上級者を中心に応用技術を学び、簡易試合や形を行うことで、最終的には初段取得を目指す。	オムニバス
		スポーツ実技Ⅸ (ソフトボール)	学校体育のベースボール型として指定されているソフトボールは、競技スポーツ・生涯スポーツ・レクリエーションスポーツとして幅広い年齢層に親しまれている。ソフトボールは、投げる・打つ・捕る・走るなどの運動の基本動作から構成され、バランスのとれた運動能力を養うことができるスポーツである。その基本的な動作や知識、チームスポーツで必要とされる協調性や責任感および指導者に必要とされる安全に競技運営ができる能力や態度を身につけることを目的とする。	
		スポーツ実技Ⅹ (野外スポーツ)	自然体験型野外活動-キャンプ(OL, ハイキング等)や自然環境の中で共同生活を通して、基礎的なキャンプ技術を学び、野外教育への理解を深める。本実技は、実習形式で実施し、seif-learning, groupleaningによって学びを深める。	共同
		スポーツ実技Ⅺ(卓球)	卓球のルール、シングルス・ダブルスの基本的な運動技能の学習法を一通り体験し、指導法を身につける。基本的技術には、サーブ、フォアハンド・バックハンドストローク、ショート、ロングストローク、ドライブ、カット、つつつき、スマッシュなどがある。それらの技能と理論となるバイオメカニクスと運動生理学の知見を講義し、演習する。卓球の体力トレーニング法について講義する。	
		スポーツ実技Ⅻ (ラグビーⅠ)	ラグビーの歴史やプレーの原則、競技規則を学習し、ラグビーの理解を深める。ラグビーの基本的な個人及びチーム技術や特性を学習し、また安全かつ楽しくラグビーをプレーすることができるための指導方法も学習することで、計画的な練習やチーム運営ができるようになる。	
		スポーツ実技ⅩⅢ (ラグビーⅡ)	「スポーツ実技Ⅻ(ラグビーⅠ)」を踏まえ、ラグビーの歴史やプレーの原則に加え、ラグビー憲章(品位、情熱、結束、規律、尊重)への理解を深め、競技規則を学習し、ラグビーの理解を深めることができる。ラグビーのポジション別スキル(スクラム、ラインアウト、キッキング)を修得し、ラグビーを安全に実施していくための指導方法を学習するなど、計画的な練習やチーム運営ができるようになる。	
		スポーツ実技ⅩⅣ (サッカーⅠ)	サッカーを組み立てる要素をテーマに分け、スキルアップのためのトレーニングを行う。効果的なトレーニングを考察し、実践する中で、サッカーに必要なスキルを習得する。	共同
		スポーツ実技ⅩⅤ (サッカーⅡ)	サッカーという競技の学びをトレーニング、ゲーム等を通して深めていく。サッカーの技術、戦術等を細かく分けて学ぶ。技術においては、パス、コントロール、トラップ、ドリブル、ヘディング等をドリル練習で地道に習得する機会を持つ。戦術においては、ミーティング、トレーニング、ゲームを通して理解し、実践できるように学んでいく。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	スポーツ専門選択必修科目	ス ポ ー ツ 実 技 X VI (バスケットボール)	バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、学校教育でバスケットボールを教えるために技術の向上と戦術を学ぶ。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていない人の動き」の基本的なコンビネーションプレイやチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、指導者としての必要な知識や心構えを身につける。	
		ス ポ ー ツ 実 技 X VII (野 球)	野球は、日本のスポーツ史、競技・年代別競技人口特性を見ても、日本で最もポピュラーなスポーツであり、生涯的に続けることができるスポーツであると言える。この野球を通じて、「投げる」、「打つ」、「捕る」、「走る」などの運動の基本動作からバランスのとれた運動能力を養う。さらに、チームスポーツとして必要な協調性や責任感および指導者に必要とされる安全に競技運営ができる能力や態度を身につける。	
	専門選択科目	地 域 と ス ポ ー ツ	現代社会において、地域社会とスポーツとはそのかかわり合いを濃くしている。この講義では、地域スポーツの変遷、我が国のスポーツ行政と地域のスポーツ振興、諸外国における地域スポーツ、総合型スポーツクラブの機能と役割などの講義をおこない、地域スポーツ振興に関する現状と課題を明らかにし、その解決策を探ることとする。また、実際の地域スポーツクラブの実例や、諸外国における地域スポーツのあり方を取り上げ、クラブで必要とされるマネジメント知識とスキルを学ぶ。	
		ス ポ ー ツ メ デ ィ ア 論	今日、テレビ・新聞などのメディアにとってスポーツは非常に重要なコンテンツとなっている。スポーツを取り上げるマスメディアの現状を把握し、問題点を探りだし、将来像を検討する。新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、インターネットなど幅広くスポーツを扱うメディアに関心を持つことが期待される。	
		スポーツマーケティング	スポーツマーケティングには、する・みるスポーツのサービス価値を高める「スポーツのためのマーケティング」と、スポーツを利用して製品やサービスの広告価値を高める「スポーツを利用したマーケティング」がある。前者ではスポーツ消費者マーケットが持つ特異性を中心に、スポーツプロダクトやスポーツ消費者行動のメカニズムについて概説する。後者では企業がスポーツに投資し、プロモーションやスポンサーシップ、ブランディングなどを行なうことについて説明する。	
		ス ポ ー ツ 文 化 論	本講義では、伝統的身体文化が、地域に根づき伝承されていることを学ぶ。各地方の体育・スポーツ文化の動向等と全国的な動向を参照しながら、体育が教育の一環として果たした役割、あるいは教育を介して普及する余暇活動としてのスポーツを学ぶ。また、スポーツの普及・発展にかかわるさまざまな側面に焦点をあてて、その問題点を浮き彫りにしながら、現代人にとっての「スポーツ」とは何かを考える。	
		ス ポ ー ツ 法 学	競技者はスポーツ・ルールにくわえて、社会のルールである《法》に従わなければならない。本講義ではスポーツに関わる法や制度について全体像と特色を指摘し、様々な角度から説明する。そこではスポーツ仲裁やスポーツ組織の体系を取りあげ、スポーツ基本法などの具体的な法律を参照する。さらに事故や知的財産管理などスポーツと法が交わる具体的な場면을挙げながら、法がスポーツをどのように扱うのかについて検討する。	
		スポーツファイナンス	スポーツ組織（スポーツチーム、フィットネスクラブ）におけるファイナンスには、一般的な組織とは異なる特性を保有している。このスポーツ固有のファイナンスである選手の移籍金、ネーミングライツなどについて説明する。	
		ス ポ ー ツ 政 策 論	スポーツの振興には、各種スポーツ組織の取り組みに加えて国家や地方公共団体の政策が重要な位置を占める。この科目では、日本におけるスポーツ政策の全体像と特徴な点を説明する。そこではスポーツ政策の主体である行政組織やスポーツ政策の正しさを問う住民訴訟制度にも触れる。そしてスポーツ政策の具体的場面としてオリンピックを含む大規模競技会の開催や学校教育におけるスポーツ、地域レベルのスポーツ振興について考える。	
		生 命 倫 理	生命倫理に関わる自然、人間、社会について論じる。身体論、遺伝子、脳科学について概説し、生命倫理に関わる諸問題を取り上げ論じる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択科目	プレゼンテーション演習	大学での学修においても、社会に出てからの労働においても、自身の見解・提案を聞き手にわかりやすく伝えるプレゼンテーションの技術は必要不可欠である。そこで本科目では、「プレゼンテーションの構成」、「スライドの作成」、「話し方と姿勢」などの方法を説明する。特に、内容が伝わりやすいプレゼンテーションとはどのようなものかを学び、スライドを実際に作成する。その上で口頭発表し、履修者間で相互評価をおこなう。	
		情報活用演習	研究領域の異なる担当者が、行っている情報処理の実態を、実例をまじえて解説する。受講生は、その処理を体験することを通じ、専門としての情報処理の仕方を修得する。 (オムニバス方式/全30回) (3 外山寛/15回) 体力テストや健康状態等を記録する電子管理表を作成する。得られた成績を処理する方法について演習形式で学ぶ。また、各種データの判定や作図を行い、これらを組み込んだ発表資料を作成させる。受講生には、各自のPC持参を必須とする。 (5 福井卓也/7回) スポーツ競技における情報戦略、情報活用の目的、チーム分析と練習の組み立て、医科学の知見をスポーツに反映させる方策、情報戦略（テクニカル）、トランボリン競技における情報活用、スポーツ現場における情報活用の事例（映像遅延装置の活用）のテーマで講義する。 (13 棟田雅也/8回) 主にスポーツマーケティング・リサーチを中心に講義を行なう。スポーツ組織（スポーツチーム、フィットネスクラブ）においてマーケット（市場）の理解は必須と言える。具体的には、市場調査の必要性や測定方法、データの収集と読み方について説明し、報告に必要な企画、集計、分析の知識と技法を習得する。	オムニバス
		海外文献講読	人々の日常生活において親しまれている球技や体操競技などの各種競技の文献等の講読を通して、国内外のスポーツの諸相を考察する。語彙理解、構文理解力などを高め、英文の要点を把握しながら、文献等を読み進められるようにする。	共同
		海外研修 (スポーツ事情)	具体的には、実際に海外での試合に出場する、試合を観戦する中で海外の文化に触れ、海外でのスポーツ事情に関する現状や問題点などについて考える。	共同
		スポーツ測定評価	健康の維持・増進やスポーツ実践のための運動や体力を支える身体機能について理解し、情報を正確に評価できるようになるための測定と評価の技法等の基礎とそれらをスポーツの指導に生かす方法などを習得する。具体的には、①体育・スポーツ・健康における測定及び評価の意義を理解する、②「測定」の基本的な考え方及び基礎理論を学習する、③実際に体力測定、身体組成、視機能測定などについて、測定方法及び評価方法について演習する、などである。	
		運動処方	健康を維持・増進するための運動内容を理解し、運動プログラムを管理できるようになることを目的とする。運動プログラムは、有酸素性持久運動、無負荷での関節運動、軽度の筋パワー、筋肥大のための筋力トレーニング、敏捷性・巧緻性・平衡性のトレーニング、柔軟性トレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウンからなる。	
		スポーツ コンディショニング論	スポーツ選手は正しいコンディショニングを実践してこそ競技力向上を図ることができる。コンディショニングには、身体的側面（トレーニング、怪我、リハビリテーション、栄養など）や心理的側面（メンタルトレーニング、メンタルヘルスなど）、ならびに技術的側面（戦略・戦術、バイオメカニクスなど）における様々な要因が含まれる。この講義では、コンディショニングに関わる様々な要因について学び、正しいコンディショニングの手法について理解し、自ら実践していく能力を養う。さらには、正しいコンディショニングを評価・指導できる能力を高める。	
		スポーツコンディショニング演習Ⅰ	この講義では、スポーツコンディショニング論の授業で学んだ知識を元に、実際のスポーツ場面の中でコンディショニングを実践し、その内容、効果について検討する。さらに新しい知見からスポーツコンディショニングについて考察する。毎週実践した内容をレポートとして提出する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択科目	スポーツコンディショニング演習Ⅱ	この講義では、スポーツ競技における年間目標、年間計画を綿密に立て、その上でスポーツコンディショニングを実践し、競技内容とコンディショニング内容を照らし合わせながら、各スポーツ競技に有効なスポーツコンディショニングについて考察する。 毎週実践した内容をレポートとして提出する。	
		コーチング論	コーチングには「教える」だけではなく、「伝える」「運営する」など様々な役割があり、競技力向上に関する指導だけではなく、チーム運営やマネジメントまで多岐にわたった役割を理解することが必要である。この講義では、コーチングとは何かを理解することから、スポーツ指導者としての心構え、指導方法、指導計画、一貫指導や安全管理など、将来指導者を目指すために必要なコーチングについての基礎的理論を学ぶ。また、様々なコーチングスタイルや海外のコーチングシステムにも触れながら、組織やチームを運営するために必要な能力を養い、将来の理想的なコーチングについて考え実践する能力を養うことを目的とする。	
		コーチング演習Ⅰ	コーチング論の授業で学んだ知識をもとに、様々な競技のコーチング現場に足を運び、実際のスポーツ場面でどのように実践しているかを観察し、各指導者の特徴やコーチング方法について学ぶ。学んだ内容については、月に1回レポートにまとめ提出する。	
		コーチング演習Ⅱ	実際にコーチングに関わり、コーチングスタイルやシステムについて学び、実習を通して将来のコーチングについて考える。また、競技別のコーチング方法についてグループワークを行い、有効なコーチング方法について様々な視点から考察する。コーチング内容については、月に1回レポートにまとめ提出する。	
		メンタルトレーニング論	メンタルトレーニングとは、自分の持つ能力が最大限に発揮できるよう、覚醒を最適の水準にコントロールする能力を高めることをねらった練習方法である。メンタルトレーニングの内容は、目標設定、リラクセーション、集中力を高めるトレーニング、イメージトレーニングなどがある。日本のスポーツにおいては、1984年、ロサンゼルスオリンピックの頃からメンタルトレーニングが研究され、近年では様々な競技に合ったメンタルトレーニングも開発され、頻繁に行われている。この講義では、メンタルトレーニングの効果的な方法について理論的に学び、実践していく能力を高める。	
		スポーツ技術・戦術論	スポーツ競技を題材に、各種スポーツにおける技術スキルの指導と戦術的スキルの指導について理解する。また、指導のための練習計画の立案と練習指導法について理解する。さらに、自ら実施している競技活動や今後の指導実践の場に活用するための知識を獲得することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (14 諸江真一/7回) サッカーにおける技術・戦術を学んでいく授業を展開する。技術においては、キック、ドリブル、ヘディング等を映像、文献を活用して確認する。戦術においては、個人、グループ、チームに分け、学んでいく。国内外のクラブチーム、各国代表チームの戦い方を映像、文献を活用し、学びを深めていく。 (7 渡辺涼子/8回) 特に柔道競技について取り上げ、柔道における技術・戦術に関する知識を習得する。また、トップ選手の試合映像をみて戦術分析を行い、今後の競技力向上に役立てていく。	オムニバス
		武道論	武道における技術論、心法論、修行論、用具論などについて資料を分析する。日本の伝統的身体的運動である武道の特性を知る。	
		武道演習Ⅰ	武道の中で特に柔道について実技を通して実践されるものを選び授業展開していく。	
		武道演習Ⅱ	武道における技術論、心法論、修行論、用具論などについて資料を分析する。日本の伝統的身体的運動である武道の特性を知る。現在の修行状況や武道演習Ⅰを振り返りながら講義を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択科目	球 技 論	サッカーの発祥から現在に至るまで歴史をひも解くことを目的とする。サッカーの歴史について、文献調査等から、個人・グループでまとめ、発表を行う。これからの球技（サッカー）についてディスカッションを行い、サッカーの将来の展望について考察する。	
		球 技 演 習 I	球技論の講義を踏まえた上で、サッカーの実技を中心とした授業展開を行う。サッカーの構成要素を押さえつつ、サッカーの特質について探求していく。	
		球 技 演 習 II	世界の球技の特性を調べ、パソコンを使ってまとめ、学びを深めていく。複数の競技をテーマとして掲げ、それぞれの特徴を項目に分けてまとめる作業を行う。各競技における自分で調べた内容を発表し、プレゼンテーションのスキルも高める機会を持つ。球技の興味を高め、理解を深める授業を展開する。	
		ス ポ ー ツ 競 技 の 心 理	スポーツの競技場面では、選手には高い心理的能力が求められる。ストレス、感情をコントロールし、集中力を高め、自信、判断力を兼ねそろえ、勝負を決める心理的戦術、強いモチベーションを持った選手こそが素晴らしいパフォーマンスを発揮できる。また、コミュニケーションスキル、人格形成もトップアスリートにとって重要な要素である。この講義では、スポーツ競技場面における様々な心理について学び、実践につなげられる能力を高める。講義形式は、グループ学習を基本として、毎時間与えられたテーマについてグループディスカッションを行い、グループごとにプレゼンテーションを行う。	
		ス ポ ー ツ イ ベ ン ト 企 画 運 営	スポーツイベントの歴史と類型や特徴を学び、競技型スポーツイベントや総合型スポーツクラブなどの生涯スポーツ型のイベントの全体構造、企画手法、実施手法、効果、管理などの知識を修得する。実際のスポーツイベントの映像・開催要項を見て自らが企画・運営するための留意点を学び、グループ演習として、スポーツイベントの企画書作成に関するプレゼンテーションを行う。	
		ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア 論	一般論として、ボランティア等の非営利活動が必要とされる社会的背景について分析する。また、重要性が増しているNPO等の非営利組織について、政府や企業との対比において分析する。そして、スポーツを通じたボランティア活動について、実践例を紹介し、その意義、将来展望等について述べる。	
		ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア 演 習	具体的には、中学校の部活動支援や運動会などの行事支援、県内で開催される金沢マラソンなどにボランティアとして参加し、ボランティアの現状や問題点などについて考える。	共同
		競 技 者 育 成 シ ス テ ム	競技者の発掘・育成・強化の全体を通じた共通の理念と指導カリキュラムに基づき、それぞれの時期に最適な指導を一貫して行う一貫指導システムを理解し、コーチングの理念・哲学・思想など専門的な知識・情報を習得する。また、指導者が競技者に対して分かりやすく説明する上でのプレゼンテーション能力や、言語の工夫や心理面のサポートなど競技者とのコミュニケーションに関する能力を向上させ、具体的な競技者育成システムの事例を理解する中から、自ら実施している競技活動や今後の指導実践の場に活用するための知識を獲得する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択科目	生涯スポーツ論	現代社会における人々のスポーツへのかかわり方の多くは「見る・参加する・支える」というものであるといえよう。その中で、生涯スポーツは、人々が自分のライフスタイルや年齢、性別、体力、関心に応じて主体的に楽しむという意味で「する」スポーツの代表といえる。少子高齢化が進み、健康志向が高まり、社会が高度情報化し、複雑化している現代社会においては、ますますスポーツ活動の必要性は高まってきている。本講義では、生涯スポーツの歴史と意義を検討し、生涯スポーツ振興の現状を把握し、「するスポーツ」の視点だけではなく、「スポーツを支える」という視点からのアプローチによって多角的に生涯スポーツを論じていく。 (オムニバス方式/全15回) (13 棟田雅也/7回) スポーツ庁は、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じた健康寿命の延伸や社会全体での医療費抑制への貢献を目的に、スポーツを楽しみながら適切に継続する生涯スポーツの振興に力を注いでいる。この科目では、我が国および地方公共団体における生涯スポーツに関する行政の役割や施策についての基礎知識を習得する。さらに、生涯スポーツに関する歴史的な変遷から現代的なトピックまでを概説する。 (7 渡辺涼子/8回) スポーツを「する」だけでなく「支える」という視点から、将来的にスポーツとどのように関わっていくについて、現状や問題点など様々な視点から検討していく。また、いままでの活動経験についてグループワークを行い、今後ボランティア活動等に参加していくための知識と心構えを身につける。	オムニバス
		スポーツビジネス概論	スポーツビジネスの基礎理論について歴史的経緯を踏まえた上で理解し、各領域（地域スポーツ・民間スポーツ・プロスポーツ）の現代的課題を把握し、地域に根差したスポーツの在り方を考える。具体的な内容としては、スポーツサービス、スポーツサービスと経営資源、（スポーツ施設等の物的資源、スポーツ指導者等の人的資源、財務的資源）、スポーツビジネスの現代的課題、運動者行動や運動生活の分析と活用などである。	
		生活習慣病概論	生活習慣病の発生には、食生活、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が影響する。本講義では、ライフスタイル改善のための運動療法や食事療法の知識を学習し、肥満の機序、遺伝、種別を理解すると共に、メタボリックシンドロームと生活習慣、運動器退行性疾患や認知症など、高齢化に関連して発症するさまざまな疾患の発生機序や予防・対策の概要について学習し、保健・運動指導の重要性と対策を習得することを到達目標とする。	
		運動生化学	本講義では、運動生化学の基礎となる、運動中のエネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、運動時の内分泌系ホルモンの働きを提示する。さらに、筋肥大・筋繊維組成の変化、高地トレーニングによる変化、肥満、老化などといったテーマについて取り上げる。	
		衛生・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学は、人間を取り巻く自然のおよび社会的環境要因と健康や疾病の関係を考究し、疾病を予防して生命の延長と身体的、精神的機能の増進を図る科学である。基本的手法として「保健統計」および「疫学」を総合的に理解できるようにし、その上で、わが国における疾病構造、社会保障システム、環境問題などの現状と課題を体系的に学び、国際化、少子化、高齢化など変化の進むわが国において発生している衛生学・公衆衛生学的な課題とその解決策について体系的に理解することを到達目標とする。	
		学校保健	学校保健の大きな目的の1つは、生徒・児童に健康で安全な学習の場を提供し、心身の発達と充実を促すことである。講義では、小テストを行いつつ、重点的に理解すべき内容の理解を図る。	
		病理学	病理学は疾病の成因、それによる病変の成立機序を明らかにする医学領域である。この授業では健康な人に疾病が発生する際の病因、病態発生や形態変化の基礎となる物質代謝障害、炎症と免疫、循環障害、成長と発達障害、腫瘍や先天異常について解説する。	
		スポーツトレーナー演習	スポーツトレーナーとして必要な体力項目の測定原理を解説し、それらの測定法とデータ処理法を教授する。具体的な演習内容は、ウェイトトレーニングとその筋電図、自転車エルゴメーターを用いた持久性トレーニングとパワートレーニング、弾性帯を用いた筋持久力トレーニング、徒手による筋力トレーニング、心拍数による持久性トレーニング、等である。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門選択科目	レクリエーション論	現代社会に生きる人々のライフスタイルはさまざまであり、それに伴って自らの自由時間をいかに有意義に過ごすかが現代人の課題となっている。そんな現代の社会において、レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人一人の生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結び付け、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション支援者として必要な基礎知識を習得する。	
		公務員と法	あらゆる公務員は行政法規が存在してはじめて行政活動をおこなうことができる。本講義ではまず、国や自治体の活動の全てを拘束する行政法規について基本構造や前提となる知識を説明する。そのうえで警察官、消防官、刑務官、事務官、教官、技官など多岐にわたる各職種の観点から、それぞれに深く関わる法律と判例の要点を説明する。各回の導入的題材としては、各種公務員試験の過去問題を扱う。	
		体力トレーニング実習	トレーニング論の授業で学んだ知識をもとに、トレーニングの年間計画を具体的に作成し、トレーニングを実践する中で競技に有効なトレーニング方法について検討する。実践したトレーニング内容については、月に1回レポートとして提出する。	
		資格柔道	原則として、スポーツ実技Ⅷ（柔道・剣道）を履修した学生とする。本講義は、日本伝講道館柔道初段を修得するための講義である。ここでは、昇段に必要な形や筆記試験の対策を行う。段位については、改めて各都道府県柔道連盟の昇段審査会を受験することになる。そこで、合格して段位が修得できることになる。	
		健康管理演習	個人および集団の健康の現状を把握し、健康維持・増進のための理論や具体的な方法を理解し、健康管理に関する正確な知識や運動負荷試験の実際、さらに運動障害の予防、救急蘇生の仕方を演習して、自らが健康維持・増進プログラムを作成でき、適切な健康管理ができるように体系的に学ぶ。	共同
		健康産業施設現場研修	学外実習施設で、実際に被指導者（一般施設利用者）に対して、面接、体力測定等を行い、各種講座の運営方法やその指導技術、介護予防に関する評価方法と運動処方技術の技術を学び、指導要領・体力運動づくりプログラムの作成や運動指導等を経験する。	共同

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 選択 科目	健 康 運 動 演 習	日本における健康づくり対策の取り組みについて理解し、健康づくり運動と運動器機能向上運動とその指導法を習得する。特定保健指導によるメタボリックシンドローム・ロコモティブシンドロームを視野においた健康づくり運動及び介護予防を目的とした運動器機能向上運動を体験し、個人の身体状況に応じた指導計画の作成および運動指導法を理解する。準備運動、主運動、クーリングダウンの意義を理解し、運動による障害予防を図る資質を養う。介護予防や膝関節障害時における水中運動の効果を理解し、水中歩行や水中動作によるプールでの安全な健康づくり運動の指導法を習得する。	
		ス ポ ー ツ 統 計 学	スポーツ科学や健康科学においても統計学の知識が必要とされることを理解し、可能な限りスポーツ科学や健康科学を対象とする簡単な例を使って、データを要約するための計算方法(代表値・散布度の計算、五数要約など)やデータの特徴を表す図(箱ひげ図、ヒストグラム、散布図など)を作成して解釈するための知識を学ぶ。	
		ス ポ ー ツ 技 術 指 導 演 習	各種のスポーツを指導する場合の要点を理解し、指導時の展開を演習形式で学ぶ。陸上競技、器械体操、サッカー、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、野球、柔道、テニスを対象に展開する。	共同
		サ ッ カ ー 指 導 演 習	日本サッカー協会の公認C指導者養成講習会のカリキュラムに基づいて、資格取得に向けての細やかな学びを実践する。「講義」と「実技」の2つから学びを深める。「講義」においては映像とパソコンソフト等を利用し、「実技」においては実際の指導実践等を行う。	共同
		保 健 体 育 科 教 育 法 Ⅰ	保健体育科の目標、内容、意義、学習指導・評価など、教科の本質と基本理論を理解する。「体育」・「保健」両分野への基礎的知識とその関連、及び学校教育における教育的意義と役割への理解を深める。	
		保 健 体 育 科 教 育 法 Ⅱ	保健体育科における学習指導要領の理解と指導実践能力の育成を目標に、この授業では、中学校・高等学校の保健体育科の学習指導要領の各領域について理解を深めた上で、学生による模擬授業を行う。その観察法や評価法も踏まえながら、教育の実践能力を高めることをねらいとしている。	

学校法人金沢学院大学 設置認可に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金沢学院大学				金沢学院大学				
	3年次				3年次			
文学部	220	15	910	文学部	220	15	910	
文学科	150	10	620	文学科	150	10	620	
教育学科	70	5	290	教育学科	70	5	290	
	3年次				3年次			
経済学部	140	10	580	経済学部	140	10	580	
経済学科	80	5	330	経済学科	80	5	330	
経営学科	60	5	250	経営学科	60	5	250	
	3年次				3年次			
経済情報学部	70	－	280	経済情報学部	70	－	280	
経済情報学科	70	－	280	経済情報学科	70	－	280	
	3年次				3年次			
芸術学部	70	－	280	芸術学部	70	－	280	
芸術学科	70	－	280	芸術学科	70	－	280	
	3年次				3年次			
人間健康学部	200	15	830	人間健康学部	0	0	0	令和3年4月学生募集停止
スポーツ健康学科	120	10	500	スポーツ健康学科	0	0	0	令和3年4月学生募集停止
健康栄養学科	80	5	330	健康栄養学科	0	0	0	令和3年4月学生募集停止
	3年次				3年次			
スポーツ科学部	120	10	500	スポーツ科学部	120	10	500	学部の設置(届出設置)
スポーツ科学科	120	10	500	スポーツ科学科	120	10	500	学科の設置(届出設置)
	3年次				3年次			
栄養学部	80	5	330	栄養学部	80	5	330	学部の設置(届出設置)
栄養学科	80	5	330	栄養学科	80	5	330	学科の設置(届出設置)
大学計	700	40	2,880	大学計	700	40	2,880	
金沢学院大学大学院				金沢学院大学大学院				
経営情報学研究科	14	－	32	経営情報学研究科	14	－	32	
人文学研究科	5	－	10	人文学研究科	5	－	10	
スポーツ健康学研究科	5	－	10	スポーツ健康学研究科	5	－	10	
大学院計	24	－	52	大学院計	24	－	52	
金沢学院短期大学				金沢学院短期大学				
食物栄養学科	60	－	120	食物栄養学科	60	－	120	
現代教養学科	50	－	100	現代教養学科	50	－	100	
幼児教育学科	50	－	100	幼児教育学科	50	－	100	
短期大学計	160	－	320	短期大学計	160	－	320	